

テーマ 1 : 市民生活の充実

若者の意見から導いた方向性

- 図書館、市民会館、生命の海科学館、博物館、市役所等にある「学ぶ」、「趣味の活動をする」、「発表・展示をする、見る」、「会議や集会をする」、「図書やメディアにふれる」、「休憩」、「行政手続き」等の機能を蒲郡駅南エリア等の交通利便性の高い位置に集約し、幅広い活動ができる複合施設を設置する。
- 市民会館、生命の海科学館、勤労福祉会館、生きがいセンター等にある「会議や集会をする」機能を再編し、利便性の高い位置に集約する。
- 博物館の展示機能をより市民が触れやすい場所に配置し、展示内容を定期的に入れ替えるなど企画の工夫をすることで、何度も訪れたいと思われるようにする。
- 保健・福祉施設は、それぞれが持つ機能を、利用者にとっての利便性に主眼を置いて再配置する。機能同士の連携による利便性の向上や駐車場不足の解消を図る。
- 自然や産業などそれぞれの地区の特色を活かした公共施設をつくる。
- 景観の良い場所や自然の豊かな地区ではウォーキングやサイクリングなど市民が日常的な運動を行い健康づくりができる環境を整える。

<若者の意見>

- ・ (蒲郡駅南エリアを) 市民生活に必要なものを凝縮したエリアとする。
- ・ (蒲郡駅南エリアに) 市民が日常的に利用する機能 (カフェ、買い物、証明書発行等) を持たせ、利便性を向上させる。
- ・ 市民会館に行政手続の機能、「図書・メディアに触れる」機能を持たせたい。
- ・ 図書館を駅南エリアに (ex.市民会館の中) ←○駅から近い方が利用しやすい○博物館、生命の海科学館に近ければ調べ物の際便利になることもある
- ・ 市民会館に勉強するスペース、憩いの場としてのスペースを設ける。
- ・ 博物館、市民会館、生命の海科学館を複合化し、学習から趣味の活動まで幅広い活動ができる場所とする。
- ・ 市民会館+博物館+民間施設の複合化←民間施設を配置して連携させたら人が流れる
- ・ 博物館の展示スペースを生命の海科学館に統合する←○展示スペースも充実 ○施設に親しみを持ってほしい ○博物館の資料室、保存の機能は残したままで
- ・ ナビテラスをもっと活用できるとよい。
- ・ 各施設の連携強化→全体の集客力UP
- ・ (竹島周辺エリアに) ランニングスペース・サイクリングスペース←○景色を見ながら運動ができる ○地元も外から来た人も
- ・ (西浦地区の学校について) 他の学校にはないようなものを整備したい。遊具は回りの樹木を伐採したり、網など漁具の活用をしたりしながら作る。
- ・ 暮らす人にとって必要なものは何かを考え、それらを複合化・多機能化していく必要がある。
- ・ (西浦地区に) 人が集まるって場ができれば、高台を利用してハイキングコースやアスレチックコースなどが整備可能である。
- ・ (勤労福祉会館は) 駐車場が少なく、会議室が空いていても活用できない。(第1回会議にて策定会議委員の意見)

テーマ2：活力・にぎわいの向上

若者の意見から導いた方向性

- 竹島周辺エリアを蒲郡を代表する観光地として位置づけ、文化や歴史の発信拠点として集中的に整備を進める。
- 竹島周辺エリアを訪れる観光客に長時間滞在してもらえるよう施設の整備を行う。
(例：休憩スペース、蒲郡の特産品を購入したり味わったりする施設、カフェ、バー、歴史・文化の発信拠点)
- 竹島周辺エリアの施設間を蒲郡の特徴を表現する美しいデザインのルートで結んだり、一体的な情報発信を行うなど、単体の施設のみでなく、エリア全体で蒲郡の魅力を表現する。
- 竹島周辺を観光客と市民の双方が訪れるにぎわいのあるエリアとする。
- 高齢者の居場所や地域サークルの活動場所などとして、空き家や空き店舗の活用を推進する。

<若者の意見>

- ・(竹島周辺エリアを)蒲郡を代表する観光スポットとして位置づける。
- ・竹島の歴史・文化的な価値を発信するための拠点機能を設ける。
- ・水族館の集客力を活かし、店舗等を活性化する。
- ・水族館横のショッピングセンターをきれいに&蒲郡の名産品の販売
- ・水族館から竹島までの間の道を整備する。蒲郡の特徴を表現したデザインや、竹島周辺の美しさを感じられる道であると良い。
- ・(竹島周辺エリアを)観光だけ出なく、市民が運動や海水浴、休憩できる場所を設け、観光客と市民の双方が訪れるエリアとする。
- ・(竹島周辺エリアに)運動できるスペースや、子どもが制作したものを展示するスペースを設けると、親が見に来るなど、地域住民の利用も増え、活気が生まれるのではないかな。
- ・竹島園地内に、カフェなど、休憩できるような快適な空間を整備する。
- ・水族館の隣接地を賑わいのある場所とする。(例：マダムが集うカフェ、高齢者や子育てファミリー向けの食事場所、カップルが落ち着けるバー・居酒屋、道の駅のような特産品を購入できる施設等)
- ・(竹島周辺エリアの)公共施設は、単体で努力している状況で一体となっていない。つなげることが重要。
- ・水族館の西側の土地を有効活用し、体育館のような運動施設、あるいは民間のショッピングセンター等を整備する。市内の若者や、市外からの利用者呼び込む。
- ・また、蒲郡駅から竹島周辺まで、街灯やイルミネーションなどにより、分かりやすい道を整備し、アクセス性を高める。
- ・空き家の活用(高齢者の居場所、地域サークル、部室)

テーマ3：地域で助け合い、子どもを育てる拠点づくり

若者の意見から導いた方向性

- 学校を中心とした地域の拠点をづくり、子育て、高齢者のレクリエーション、文化活動、集会、スポーツなど地域の方々の様々な活動の場とするとともに世代間交流の場とする。
- 社会の変化に合わせて、地域で高齢者を見守り、子どもを育てる環境を整える。
- 空き家を活用するなどして地域で高齢者の居場所をつくる。
- 児童クラブの小学校内への配置を進め、子どもの安全を確保する。
- 交通事情など地区の実情に配慮した上で小中一貫化を進める。また、学校を集約することより教育の充実を図る。
- 必要であれば学区を見直したり、学区を選択できるようにする。
- 保育園の集約などにより、保育対象年齢の拡大などサービス内容の充実を図る。
- 地域の拠点を災害時の避難場所として利用することにより地域の防災力を高める。

<若者の意見>

- ・学校で子育てができる、児童館や公民館があるなど、地域の中での学校を作っていく。部活動、課外活動は学校で完結させず地域で行う。児童館、公民館、図書館などを学校に多機能化して配置してはどうか。
- ・学校を高齢者が子どもを孫のように育ててくれる場とする。
- ・高齢者と子ども交流
 - 児童館の中に高齢者が遊べる場をつくる。
 - 公民館の中に子どもたちが入れるようにする。
- ・児童館、公民館等を集約し、勉強スペース、創作ギャラリーなどを空き教室を活用して整備していく。
- ・小学校は、安全確保のために門扉など閉じているが、逆に地域の方々が活発に利用することにより、監視の目が届き、安全性を確保することのできるという側面もあるのではないか。
- ・学区を変える→自由に学区を決められるようにする。
- ・学校数を減らす。(遠い生徒はバスを走らせる・電車通学をする)
- ・人口減少に合わせ、小中一貫教育をする。(西浦や大塚のように小中がほぼ持ち上がりの地区なら不可能ではないはず。)
- ・小、中、公民館を一緒にすることで交流できる。
- ・学校は減らすしかない。長期の視点でのアナウンス。
- ・まち全体で子どもを育てていく環境を作り出していくことが重要。
- ・小中学校 20 校を今後もすべて維持していくことは財政的に苦しいと感じている。
- ・学校を合併してでも人数を保ってほしい。好きな部活に入れたり、設備を充実させることができる。
- ・地域に防災・避難場所をつくる。

テーマ4：住民参画によるまちづくり

方向性

- 公共施設の再編は、まちづくりと一体になって行う。
- まちの課題を市民が議論し、課題を解決するための手段として公共施設の再編を行う。
- 最終的には市民の意見を踏まえ、行政が計画を決定する。

<若者の意見>

- ・意見をいただけていないので、あらためて意見をいただきたいと思います。
- ・特に、
 - ①市民の参加の方法でアイデアがあるか。
 - ②反対する市民にも納得してもらうにはどうすればいいのか。
 - ③受けられるサービスと財政負担とのバランスはどのように考えていけばよいか。